

# 2023年2月期 第2四半期決算

---

---

## イオン株式会社

2022年10月5日

・コロナ感染第7波の到来、光熱費の高騰は想定外も、営業収益、営業利益、経常利益は**過去最高を更新。四半期純利益は前年比約4倍**

(億円)

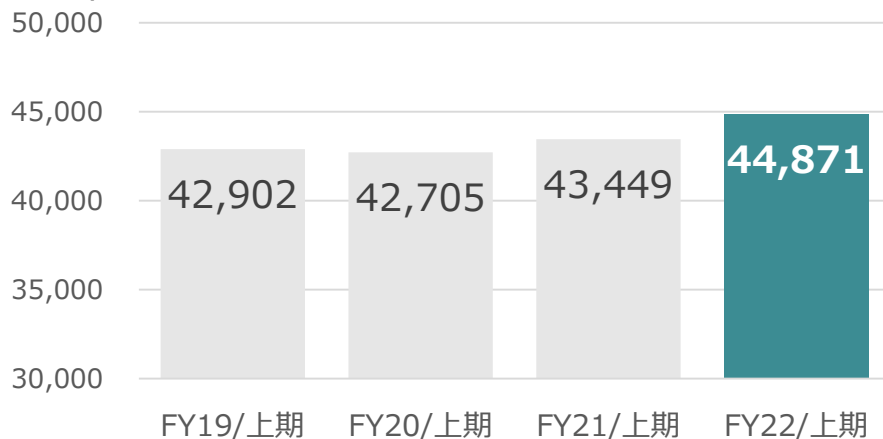
	当期実績	前年比・差※1	収益認識基準 適用影響※2
営業収益	44,871	103.3%	-863
営業利益	958	181	7
経常利益	953	173	0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	180	134	

※1 旧収益認識基準の前年同期実績との対比

※2 経常利益の収益認識基準提供影響額は95百万円

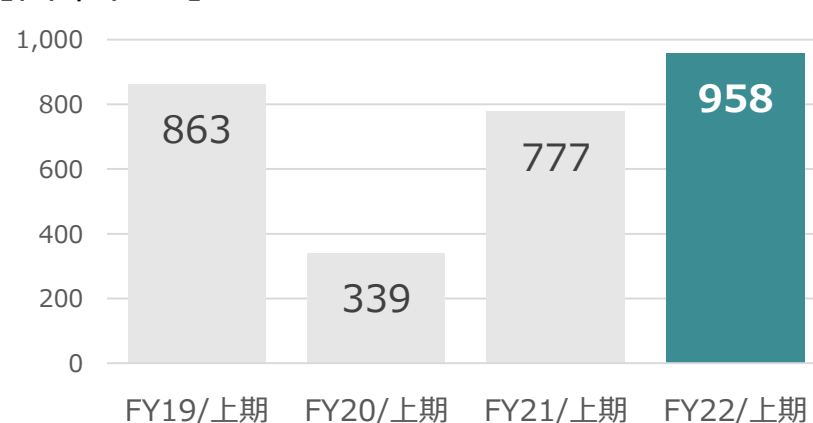
- ・営業収益並びにすべての段階利益がコロナ前水準を上回る
- ・水道光熱費の上昇を売上回復と販管費のコントロールで吸収

【営業収益】

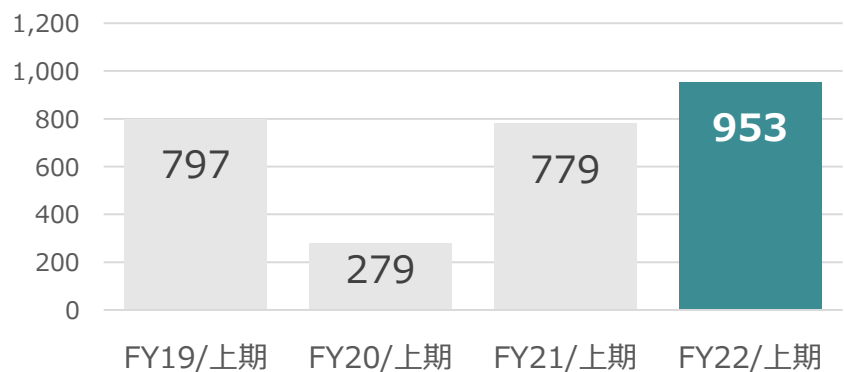


【営業利益】

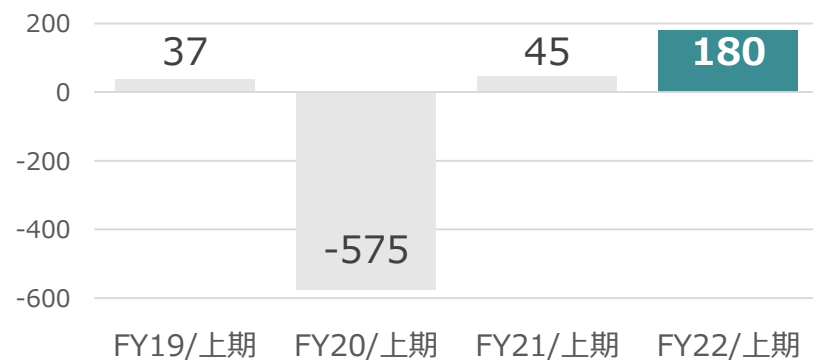
(億円)



【経常利益】



【四半期純利益】



# セグメント別業績



- ・営業収益：5事業が増収
- ・営業利益：5事業が増益・損益改善

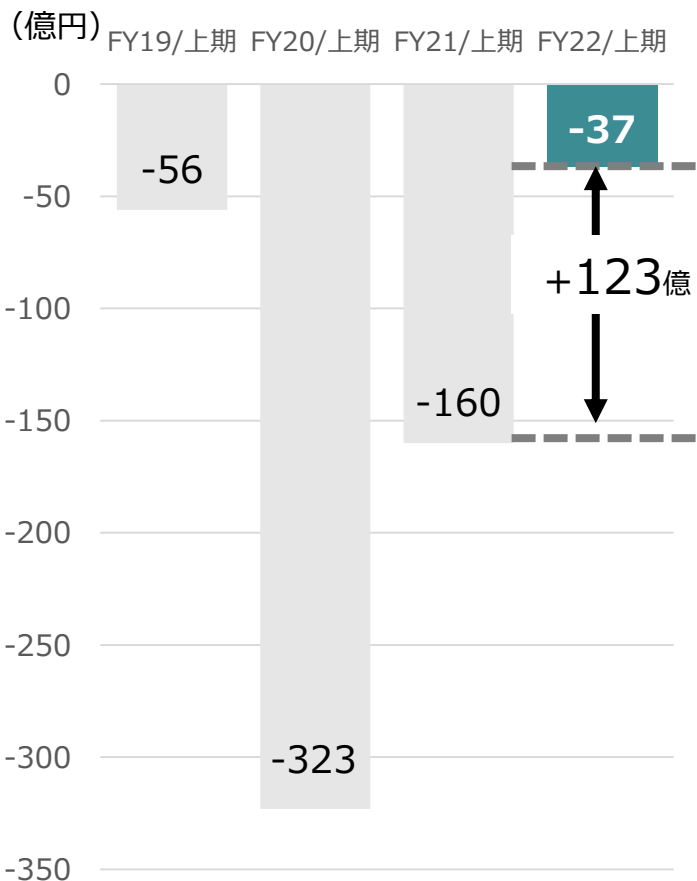
## 【セグメント別業績】

(億円)

	営業収益		営業利益	
	実績	前年比 ※	実績	前年差 ※
連結合計	44,871	103.3%	958	181
GMS	15,988	98.0%	-37	123
サービス・専門店	3,771	109.0%	59	74
国際	2,454	118.1%	73	45
ディベロッパー	2,163	121.1%	230	32
ヘルス&ウエルネス	5,654	110.7%	235	13
DS	1,913	97.6%	8	-3
総合金融	2,243	93.7%	330	-20
SM	13,091	102.9%	85	-56

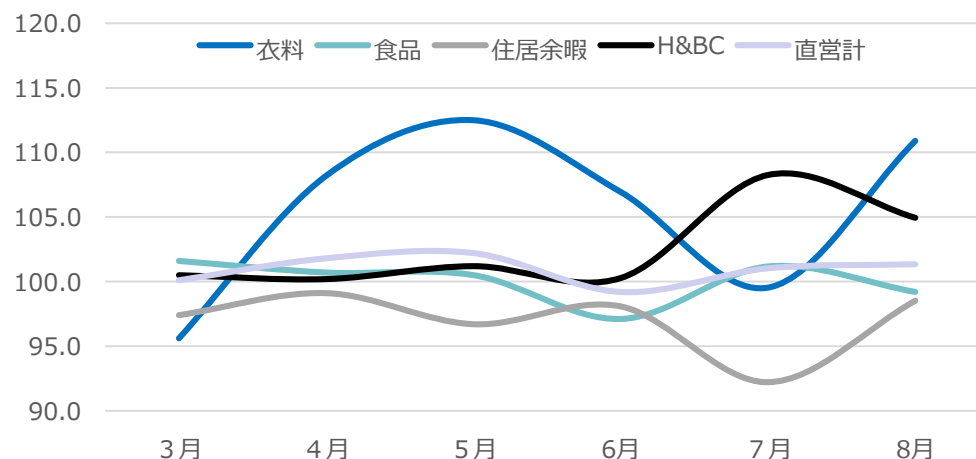
- ・GMS事業は損益改善123億円。コロナ前の損益水準を上回る
- ・衣料品およびH&BCが全社売上・荒利率の改善をけん引

## 【セグメント利益※1】



## 【イオンリテール 既存店売上高前年比の推移】

(億円)



## 【イオンリテール 既存店売上高前年比、荒利率前年差】

(%)

	上期	衣料	食品	住居余暇	HBC	会社計
売上既存比		105.2	100.0	96.9	102.6	100.9
荒利率前年差		+2.4	-0.1	+0.1	+1.3	+0.4

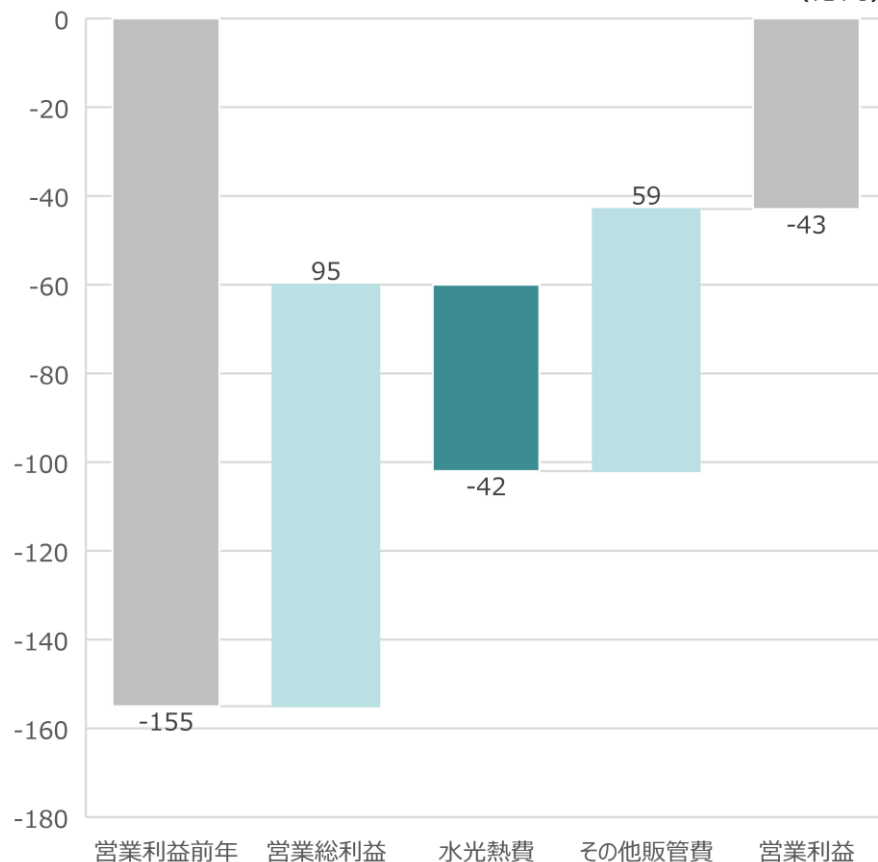
## 【ネットスーパーの状況】

2019年上期対比 約1.6倍

- ・過去2年間の構造改革が奏功し大幅増益
- ・電気代上昇影響を販売一般管理費総額のコントロールで吸収

【営業利益増減※1】

(億円)



【商品在庫高、在庫回転日数】

	2019.上期	2020.上期	2021.上期	2022.上期
商品在庫高	1,678億円	1,261億円	1,124億円	<b>1,046億円</b>
在庫回転日数 2019.上期差※2	-	-5.5日	-9.7日	<b>-10.6日</b>

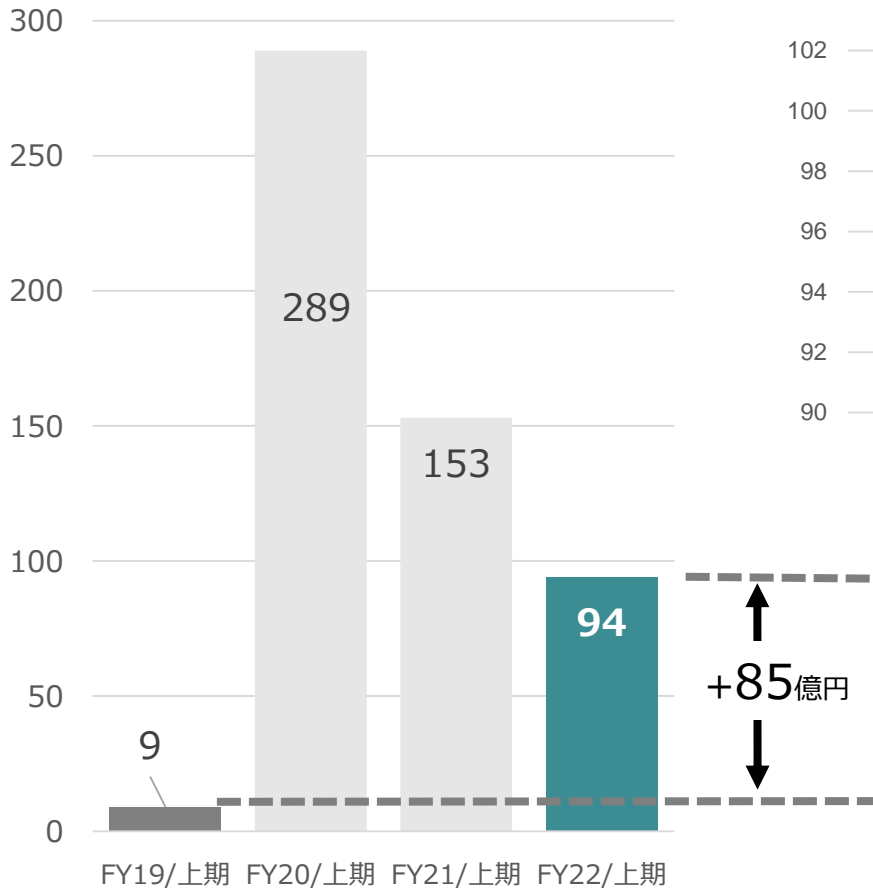
【電気代単価の上昇 水光熱費前年差】

	2022.1Q	2022.2Q	2022.上期
電気代単価 既存比	134.8%	139.7%	<b>135.6%</b>
使用量既存比	100.5%	96.5%	<b>98.2%</b>
水光熱費 前年差※2	+18億円	+23億円	<b>+42億円</b>

- ・コロナ前との比較では85億円の増益。上期の水光熱費の前期差は約100億円
- ・巣ごもり需要の落ち着きと節約志向が売上に影響、客数が低迷

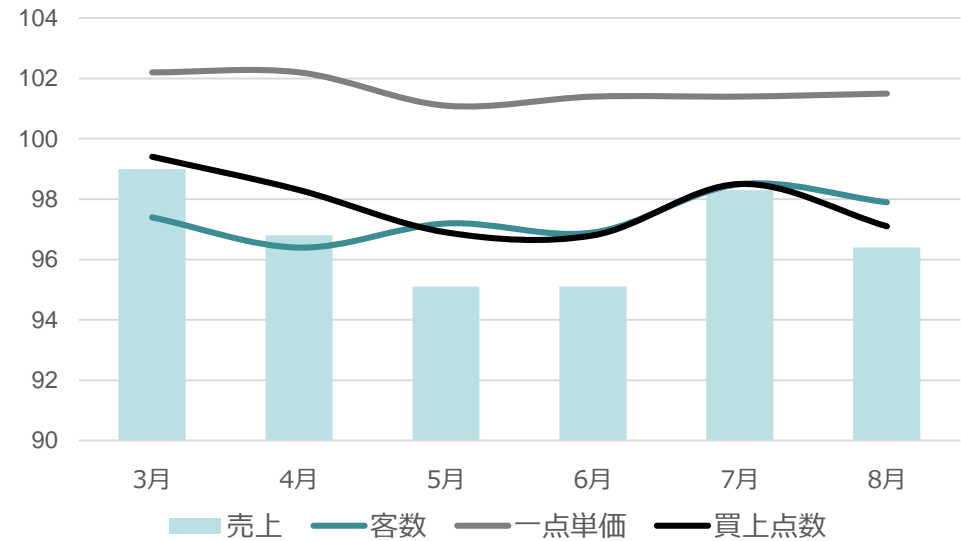
## 【セグメント利益※1】

(億円)



## 既存店売上高前年比※2

(%)



**+56 億円** 既存事業

営業収益※2 104.0 %

販管费率※2 -0.6 pt.

**+28 億円** フジ連結効果

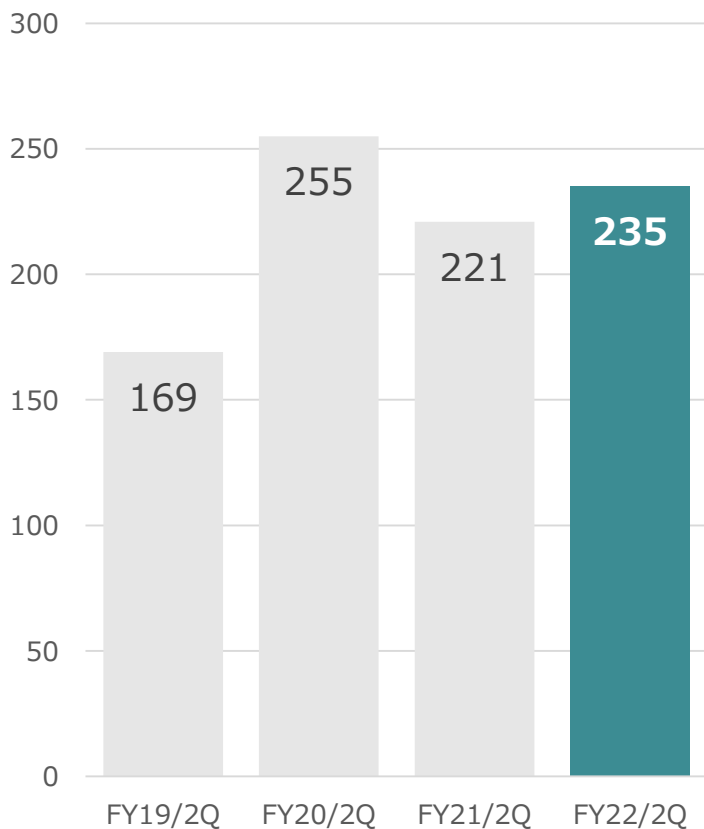
※1 2019、2020年度実績は会社のセグメント移動を調整。2021、2022年度実績はSM事業とDS事業の単純合算

※2 主要会社計 19年比

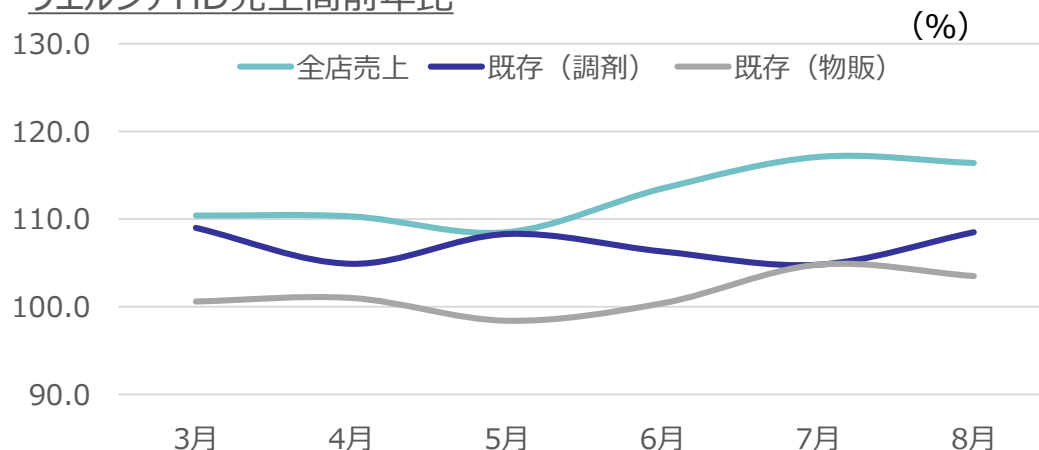
- ・調剤併設や新規出店、M & Aなど成長戦略を推進
- ・調剤併設店舗でPCR等無料検査・医療用検査キットの無料配布に積極的に取り組み。来店客数が増加し、風邪薬、解熱剤など販売につながる

## 【セグメント利益】

(億円)



## ウエルシアHD売上高前年比



## ウエルシアHD

### 売上前年比 (既存店)

医薬品 107.6%、物販計 101.5%、調剤計 107.0%

### 成長戦略

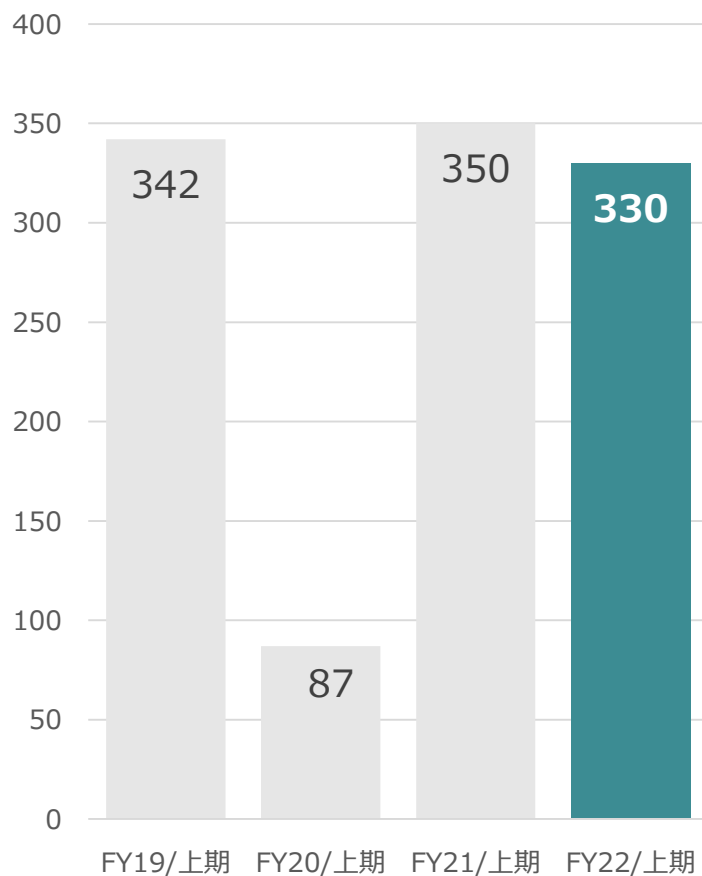
- ・調剤併設店舗 (国内) 1,943店 (併設率73.5%)
- ・新規出店 (国内) 79店
- ・6月 株式会社コクミンを子会社化
- ・グループ店舗数 2,702店



- ・海外：各種取扱高と営業債権残高の回復。継続的な生産性の向上により増収増益
- ・国内：クレジットカードのショッピング取扱高及び営業債権残高が堅調に推移

## 【セグメント利益】

(億円)



## イオンフィナンシャルサービス エリア別業績

(億円)

	営業利益	前期差	
海外	218	+36	・販促施策を強化し取扱高を拡大 ・営業債権残高は19年を上回る
国内	104	-50	・カードショッピング取扱高成長 ・キャッシング取扱高底打ち

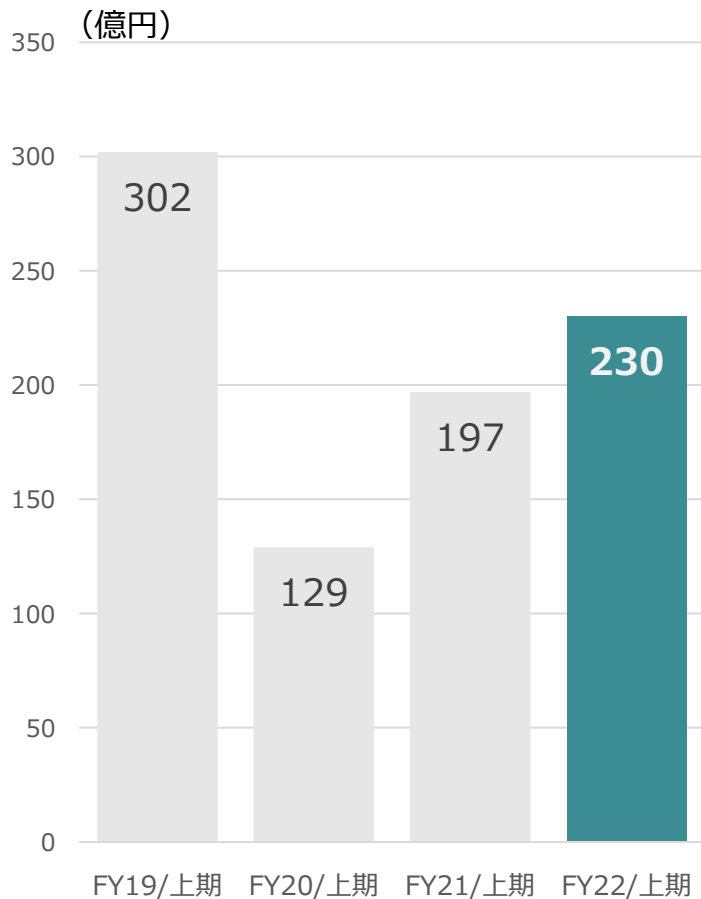
## 各種取扱高、営業債券残高状況 (海外)

(億円)

		実績	前年比 (増減)	19年比 (増減)
クレジットカード	取扱高	2,333	<b>148%</b>	112%
	営業債権残高	2,457	<b>+603</b>	+445
個品割賦	取扱高	577	<b>158%</b>	90%
	営業債権残高	2,475	<b>+459</b>	+648
個人ローン	取扱高	794	<b>155%</b>	96%
	営業債権残高	2,721	<b>+499</b>	+334
合計	取扱高	3,706	<b>151%</b>	104%
	営業債権残高	7,654	<b>+1,563</b>	+1,428

- ・営業利益は前年から32億円の増益、ただしコロナ前水準に届かず
- ・A M国内の専門店売上は、19年実績比減、前年からは二桁増
- ・A Mベトナムの専門店売上は大幅改善、A M中国は4月以降回復傾向

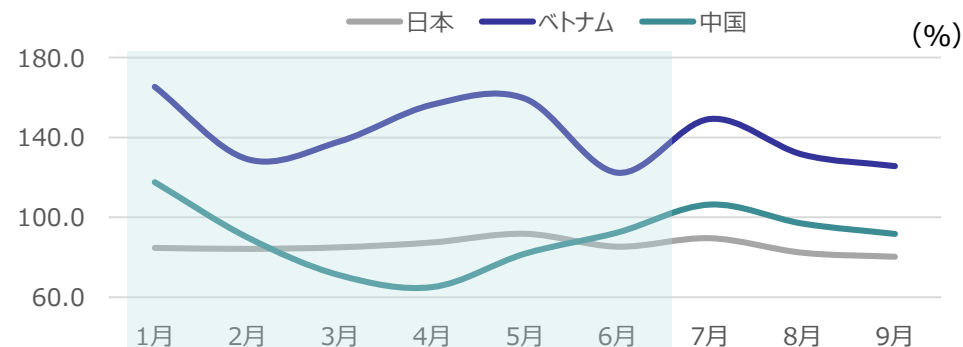
## 【セグメント利益】



## イオンモール 既存モール専門店売上高対比 (%)

	2021年比		2019年比	
	1Q	2Q	1Q	2Q
日本	112.9	111.5	88.0	86.8
ベトナム	113.8	156.8	145.2	147.6
カンボジア	135.0	198.3	87.5	93.7
インドネシア ※1	136.3	123.5	71.8	75.1
中国	85.0	80.5	94.4	87.8

## イオンモール 既存モール専門店売上月次推移2019年度比 ※2 (%)



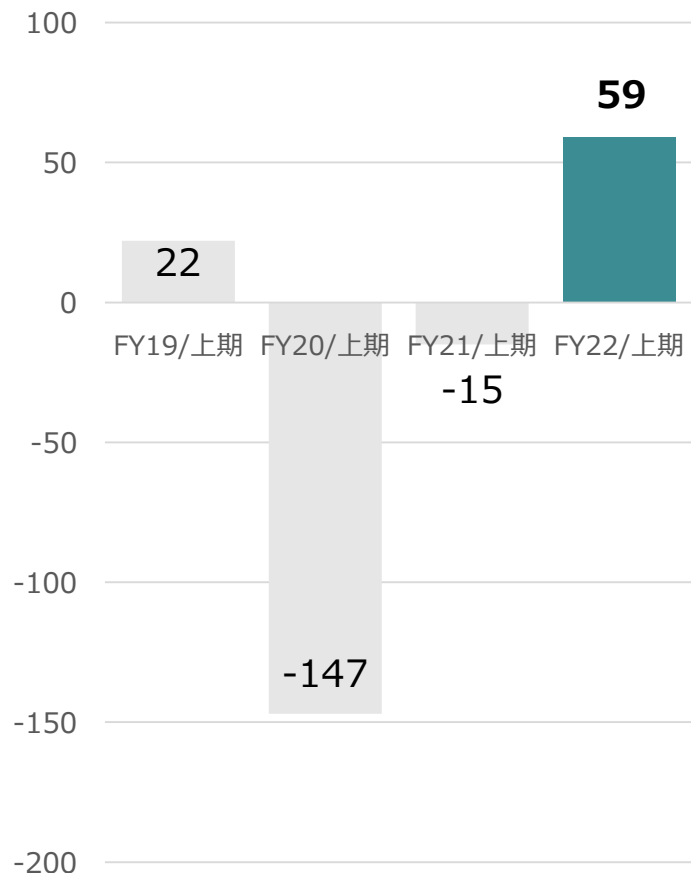
※1 インドネシアは、既存モールの来店客数対比

※2 ベトナム・中国の連結累計会計期間（1月～6月）を網掛け。9月は30日時点の速報値

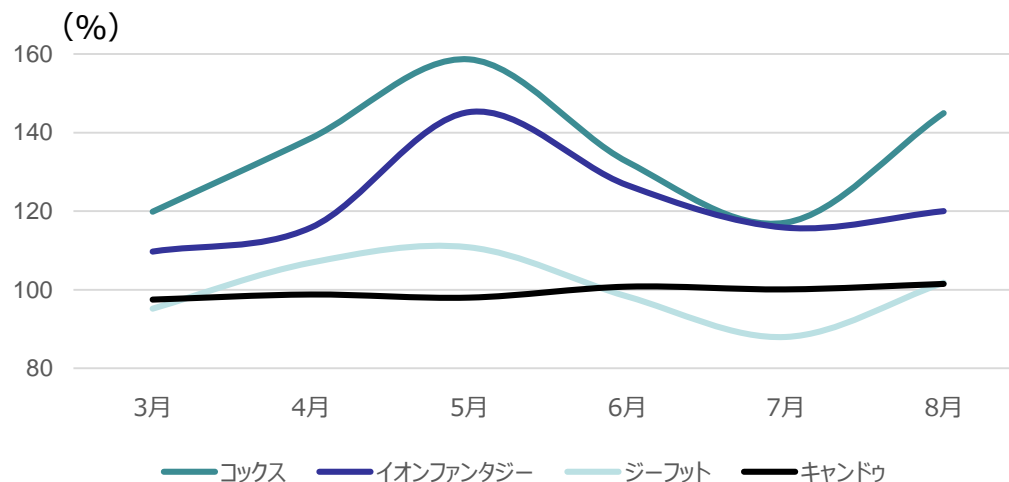
- ・上期黒字転換。2Q前半は感染拡大が影響し回復が鈍化するも8月より再回復
- ・コロナの規制で集客面で影響を受けていたアミューズメント系の企業が増益貢献

## 【セグメント利益】

(億円)



## 既存店売上高前年比



## アミューズメント系の企業の業績

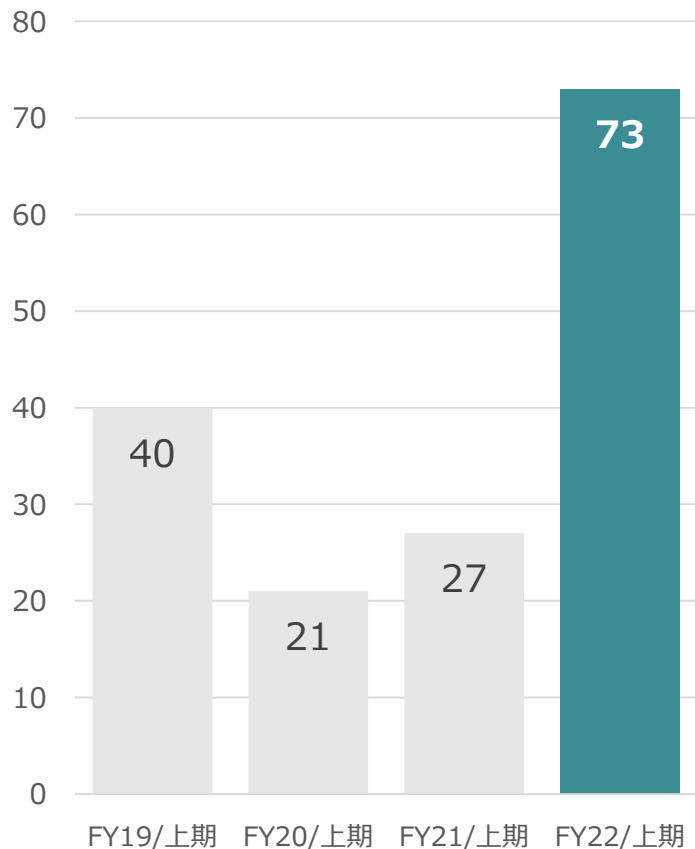
(億円)

	営業収益	営業利益
	前年比	前年差
イオンエンターテイメント	132.3%	26
イオンファンタジー	115.6%	24

- ・アセアン：イオンマレーシア、イオンベトナムが増収増益。全ての段階利益で過去最高を更新
- ・中国：地域により行動制限の影響が残るも、第2四半期より回復基調となり増益

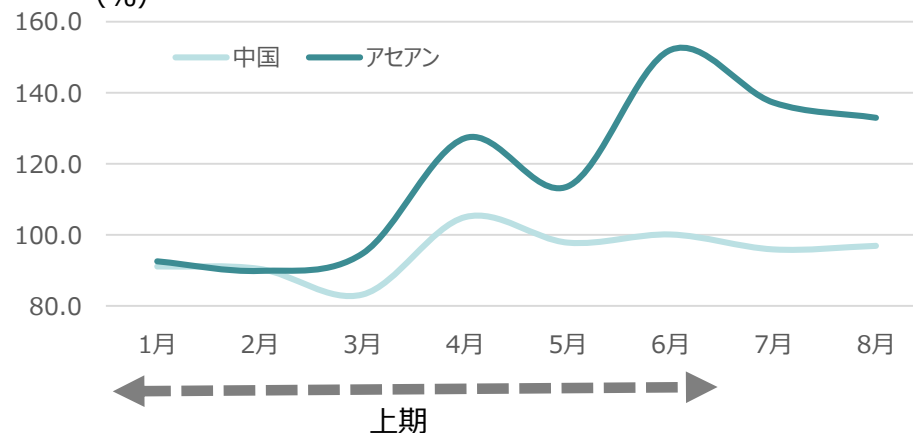
## 【セグメント利益】

(億円)



## 中国・アセアン各社※ 既存店売上高前年比

(%)



## イオンマレーシア、イオンベトナム

(億円)

	営業収益	営業利益
	前年比	前年差
イオンマレーシア	122.7%	22
イオンベトナム	142.8%	18

・期初予想に変更なし。第2四半期は概ね想定線での進捗

【2022年度 業績予想】

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (予想)	前期比・差
営業収益	86,042	86,039	87,159	<b>90,000</b> <b>92,000</b> <small>旧収益認識基準</small>	- <b>(+5.6%)</b>
営業利益	2,155	1,505	1,743	<b>2,200</b> <b>~2,100</b>	<b>+456</b> <b>~356</b>
経常利益	2,058	1,388	1,670	<b>2,100</b> <b>~2,000</b>	<b>+429</b> <b>~+329</b>
親会社株主に帰属 する当期純利益	268	-710	65	<b>300</b> <b>~250</b>	<b>+284</b> <b>~+134</b>

The AEON logo is centered on a white background. It features the word "AEON" in a bold, purple, sans-serif font. A purple, three-dimensional ring with a gradient from light to dark purple is positioned horizontally, passing through the middle of the letters "E" and "O".

**AEON**

# 2022年8月末 連結貸借対照表



(億円)

資産の部 (主要項目のみ)	2022/2	2022/8	前期末差	負債・純資産の部 (主要項目のみ)	2022/2	2022/8	前期末差
現預金	11,722	12,280	557	支払手形・買掛金	9,755	10,739	984
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	16,550	18,452	1,901	有利子負債 (金融子会社除く)	22,031	22,980	949
たな卸資産	5,551	5,774	223	有利子負債 (金融子会社)	10,878	11,959	1,080
営業貸付金・銀行業 における貸出金	28,356	29,340	983	銀行業における預金	41,734	43,276	1,542
有形固定資産	31,308	33,233	1,924	負債合計	98,206	103,276	5,069
投資その他資産	9,901	9,978	77	株主資本	8,977	9,157	179
資産合計 (金融子会社除く)	116,330 (57,267)	123,118 (61,549)	6,787 (4,282)	純資産合計 (金融子会社除く)	18,124 (14,148)	19,842 (15,586)	1,718 (1,438)
				負債・純資産合計 (金融子会社除く)	116,330 (57,267)	123,118 (61,549)	6,787 (4,282)

参考資料1

	2021年度	2022年度 (予想)
第2四半期末	普通配当 18円	普通配当 18円
期末	普通配当 18円	普通配当 18円
合計	普通配当 36円	普通配当 36円



- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている 見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。